

## I はじめに

本学級の児童（第1学年）は、図画工作科において、自分のもっているイメージをのびのびと表現したり、互いにつくったものを見せ合ったりすることができる。私は、自分の作品の面白さや楽しさ、表し方の工夫等を言葉で伝える力について、発達段階を踏まえて身につけさせたいと考えた。対象の低学年の児童には、「自分なりの見方や感じ方をもち、表現できること」を大切にした指導をしていきたい。そこで、「見あって、聞きあって、『わたし』が広がる鑑賞活動」というテーマを設定し、ICTの効果的な活用と教師の支援の仕方に焦点を当てながら実践に取り組むことにした。

本実践では、鑑賞活動を通して「形」や「色」、「イメージ」等の面白さや楽しさを伝え合い、自分の見方や感じ方を深めさせたい。そのためには、つくったものの完成形だけでなく活動中のつくりつつあるものにも着目し、児童が「いいな」と感じた形や色などをタブレットで撮影させていく。記録することで活動の変化を楽しみながら安心して次の活動へと進み、試行錯誤しながら自分の思いを表現する楽しさを感じさせたい。また、動画や写真を用いて前時の活動の面白さや楽しさ、よさを共有することは、つくったものに対する自分の見方や感じ方が広がり、表現方法や製作意図の深長につながると考える。そして、造形の要素を取り入れた話し方の例示や児童の思いを共感的に受け止める教師の言葉がけにより、自分の思いを言葉で伝える力を養いたい。「見あって、聞きあって、『わたし』が広がる鑑賞活動」の実践を通して、造形活動の面白さや楽しさ、よさや工夫等を表現できる児童の育成を目指し、本研究に取り組んだ。

## 2 指導の実際

### (1) 仮説

- ① ICTを活用し、互いのつくったものを認め合う活動を意図的に行えば、自分の見方や感じ方が広がり、その後の表現方法や製作意図に成長が見られるのではないか。
- ② 教師が児童の思いを共感的に受け止め、鑑賞する際の視点（形、色、イメージ等）を示しながら対話し、児童相互の対話の時間を大切にすれば、つくったものの面白さや楽しさ、表し方の工夫を表現しやすくなるのではないか。

### (2) 指導計画

#### 第1次 題材「ならべてみつけて」—わりばしや紙コップ等—

- ① 身近な材料を並べたり組み合わせたりする活動を楽しむ。
- ② 鑑賞活動を通して面白さやよさに気付き、活動を工夫する。

#### 第2次 題材「ならべてみつけて」—透明色紙—

- ① 透明色紙の形や色をよく見て、工夫して活動する。

#### 第3次 題材「光の国のかなまたち」

- ① 「いいな」と思う形や色の重なりを見つけ、光の友達をつくる。
- ② 鑑賞活動を通して形や色のよさを見つけ、光の友達を工夫する。

### (3) 目標

第1次「ならべてみつけて」—わりばしや紙コップ等—
・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、わりばしや紙コップ等の身近な材料に慣れるとともに、並べたり、つなげたり、積んだりするなど、手や全体の感覚などを働かせて活動を工夫する。 (知識及び技能)
・わりばしや紙コップ等の身近な材料の形や色などを基に、自分のイメージをもしながら、造形活動を思いつき、感覚や気持ちを生かしながらどのように活動するか考える。 (思考力、判断力、表現力等)
・つくったものの造形的な面白さや楽しさ、表したこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 (鑑賞)
・つくりだす喜びを味わい楽しく表現し、鑑賞する学習活動に取り組んでいる。 (学びに向かう力、人間性等)

第2次「ならべてみつけて」—透明色紙—
・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、透明色紙を並べたり、重ねたりするなど、手や全体の感覚などを働かせて活動を工夫する。 (知識及び技能)
・透明色紙の形や色などを基に、自分のイメージをもながら、造形活動を思いつき、感覚や気持ちを生かしながらどのように活動するか考える。 (思考力、判断力、表現力等)
・つくったものの造形的な面白さや楽しさ、表したこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 (鑑賞)
・つくりだす喜びを味わい楽しく表現し、鑑賞する学習活動に取り組んでいる。 (学びに向かう力、人間性等)

第3次「光の国のかなまたち」
・自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付き、透明色紙やビニール袋等の身近な材料に慣れるとともに、並べたり、つなげたり、重ねたりするなど、手や全体の感覚などを働かせて表したことを基に、表し方を工夫する。 (知識及び技能)
・透明色紙やビニール袋等の身近な材料の形や色などを基に、自分のイメージをもながら、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながらどのように表すかについて考えている。 (思考力、判断力、表現力等)
・つくったものの造形的な面白さや楽しさ、表したこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 (鑑賞)
・つくりだす喜びを味わい楽しく表現し、鑑賞する学習活動に取り組んでいる。 (学びに向かう力、人間性等)

### 3 結果と考察

#### (1) ICTの活用による個別最適な学びと協働的な学びの実現

導入時に、教師作成の動画を活用したことによって、児童が学習内容を短時間で理解し、イメージを広げて主体的に学習に取り組むことができた。また、前時の活動動画の中で、児童のつくったものをオリジナルのキャラクターが紹介することで、よさや面白さをもっと伝えたいという意欲を育むことができた。

児童は学びの記録を残すことを楽しみ、つくったものを自分が見てほしい向きや距離等から工夫して撮影し、自分の思いを伝えることができた。写真をもとに表現方法や製作意図の違いを伝えたことで、教師や友達に分かりやすく伝えることができ、対話が深まった。さらに、言葉で表現することが苦手な児童にとっても、自分の見方や感じ方を視覚的に伝えることができ、一人一人の学習進度や特性に合わせて学びの記録を撮ることができるので、学習の個別最適化を図ることができた。友達のつくったものを参考にしながら自分なりの工夫を加えて次の活動に取り組む児童が増えるなど、協働的に学ぶことを通して表現方法の工夫や製作意図の確立に成長を感じた。

#### (2) 教師の支援による主体的・対話的な学びの実現

教師の共感的な言葉かけや造形要素(形、色、イメージ等)を基にした話し方の例示は、話しやすい雰囲気をつくり、発言の助けとなった。教師の問い合わせに対して最初はどのように伝えてよいのか迷う児童も、板書に示された言葉や友達が話す姿を見て、自分のイメージや試したことを話せるようになった。また、友達の活動を見て「～みたい」「～にも見えたよ」と自分なりの見方や感じたことを自然に伝えられるようになってきた。

時計の図を用いて製作と鑑賞の時間を明確に示したことでの活動に見通しをもって取り組み、見ること聞くことに集中することができた。鑑賞時間の設定については児童一人一人の思いによって長短があるため、次に何をしてよいのか思い付かず目標から離れてしまう児童がいた。本時の目標に着目させながら鑑賞活動に目的意識を持たせることや、新たな活動のイメージが広がるような問い合わせが必要であると感じた。

活動時間中の教師に伝えられていたつぶやきも発表時間になるとなかなか話せない児童が多かった。今後は、発表時間にもっとゆとりをもたせ、教師からの問い合わせによって伝えたい思いの言語化を補助していく。

### 4 おわりに

本実践では、つくったものだけでなく、つくりつつあるものに対する児童の思いを大切にしたいと考え、ICTを活用しながら実践に取り組んだ。効果が検証できた一方で、写真では実際の作品の大きさや立体感、鑑賞する向きによる感じ方の違いを交流できないという課題が見つかり、さらに研究を重ねた。それにより、つくったものが残っている間に角度を変えて鑑賞することの大切さを改めて感じさせることができた。今後は、適宜タブレット記録を活用しながら鑑賞する方法を研究し、一人一人の見方や感じ方を広げていきたい。

実践を通して、自分のつくったものを見せることが好きな児童が、友達のつくったものを見るなどを楽しみ「～がいいね」「～みたい」と声をかけたり友達の活動を取り入れたりできるようになった。今後も他者との対話を大切にしながら、自分のやりたいことを絶えず考え、つくりだす喜びをのびのびと表現できる児童の育成に取り組んでいく。